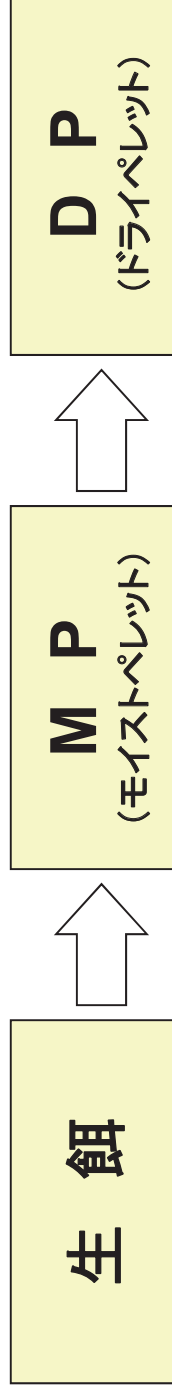


養殖魚のエサについて

養殖が始まった頃は、日本近海でマイワシが豊富に獲れていたことから、生餌(なまえさ)が与えられていました。しかし、マイワシの減少、養殖魚の品質向上、漁場環境の保全等の理由から、より優れたエサの開発が進められてきました。

そこで、作られた物がMP(モイストペレット)であり、DP(ドライペレット)です。使用されるエサは、生餌⇒MP⇒DPと時代と共に変わり、現在は、魚の種類や成長度合、水温など様々な要因により主にDPとMPを使い分けています。将来的にはDPのみで魚を飼うようになる事が予想されます。

◇使用されているエサの移り変わり



魚の栄養はもちろん、環境についても考えられているんだよ！



種類	生餌(なまえさ)	モイストペレット	ドライペレット
			
形状	生魚の切り身	半生の固形タイプ	乾燥した固形タイプ
原料	カタクチイワシやサバなどの多獲性魚種*	生餌、魚粉、魚油など	魚粉、小麦粉、大豆油かすなど
使用状況	<p>現在では、生餌のみを与える事はほとんどなく、主にMPの原料として使用されています。</p> <div data-bbox="1281 1301 1449 1749" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>魚が食べるエサは人が食べても大丈夫だよ♪</p> </div>	<p>混ぜ合わせる割合を変えたり、ビタミンなどの栄養剤を加える事もでき、養殖業者自らの判断で、魚の様子に合わせたエサを作れるため、現在最も多く使用されているエサです。</p>	<p>養殖する魚に合わせて、バランス良く栄養素が入っていて、しかも形がしっかりとしているため、水に入っても崩れることはなく、ほぼ100%魚の口に入るため、環境に優しいエサと言えます。</p>



※一時にたくさん獲れる魚の総称。イワシ類(マイワシ・カタクチイワシ)、サバ類、スケトウダラ、サンマ、アジ類など。

きゅうじ エサの与え方について(給餌方法)

◆給餌に対する基本的な考え方

過去

飽食給餌

お腹が一杯になるまで、たくさん与えていたため、残ったエサが海を汚したり魚が脂っこくなったりと問題がありました。

お腹一杯！
もうこれ以上入らないよ！

現在

…魚の成長や味はもちろん、自然環境に配慮

適正給餌

栄養学をもとに魚のエネルギー要求量を計算してエサを与えています。＝環境に優しい！

消費者の好みにあわせたおいしい魚が育てられています！

健康で身のしまったおいしい魚に！！

おなかが減ったよ～

カロリーや栄養素を計算して作ったエサを適量与えます

〇〇kg

＝

トリプトファン
ビタミン
ロイシン
バリン

栄養学

ヒスチジン
アルギニン
タンパク質

種類	機械給餌	
	手まき給餌	給餌船給餌
		
主な対象魚	稚魚やトラフグ、ヒラメなど	ブリ(ハマチ)、カンパチなど
使用方法	魚が小さい時やゆっくりエサを食べる魚(トラフグ、ヒラメなど)への給餌方法です。	<p>生簀(いけす)中央に設置した自動給餌機で魚にエサを与えます。</p> <p>毎日魚の状態や水温を確かめ、エサの量や給餌時間等を設定します。</p>